

第4回 安倍川流域委員会 議事要旨

中部地方整備局では、「安倍川水系河川整備計画（大臣管理区間）」を策定するにあたり、安倍川水系河川整備基本方針の報告及び安倍川の現状と課題等についてご意見をいただくため、第4回安倍川流域委員会を開催した。

【開催日時等】

日時：平成16年7月30日（金） 14:00～16:00

会場：ホテルアソシア静岡ターミナル 15F ベルビューの間

【出席者】

大坪檀委員長、齋藤晃副委員長、石川たか子委員、板井隆彦委員、市川一郎委員、遠藤幸雄委員、松永信一郎委員、川村美智委員、久保田妙子委員、小嶋善吉委員（代理：西山建設部長）、清水孝男委員、杉山恵一委員、高木敦子委員、高橋裕委員、竹内礼子委員、築地勝美委員、土屋智委員、村上敏委員、村上光司委員、村田雄剛委員、湯浅保雄委員、

【議事内容】

- (1) 第3回安倍川流域委員会議事要旨（案）
- (2) 安倍川水系河川整備基本方針の報告
- (3) 安倍川の現状と課題
- (4) 今後のスケジュール

【議事要旨】

1. 流域委員会委員の補充について

- 漁業関係分野の専門家として委嘱していた海野宗一氏が、高齢を理由に辞任を希望し、後任には安倍藁科川漁業協同組合長の松永信一郎氏を推薦した。
- 規約第3条第3項（委員に欠員が生じた場合には、委員会にて協議の上、必要に応じて委員の補充を行うものとする。）に基づき、流域委員会で意見及び賛否を伺い、松永信一郎氏を委員とすることが承認された。

2. 第3回安倍川流域委員会議事要旨（案）について

- 第3回安倍川流域委員会議事要旨（案）の内容について確認し、了承された。

3. 安倍川水系河川整備基本方針の報告について

- 平成16年6月14日に策定された「安倍川水系河川整備基本方針」について事務局から報告を行い、以下の意見、感想、質問などを伺った。

1) 河川整備基本方針（全体）について

○河川整備基本方針は審議会で決定したものか？それとも、提出した段階か？
→決定したものである。

○河川整備基本方針は、数字と固有名詞以外はどこの河川でも通じる内容になっているため、整備計画では安倍川の特徴を出してほしい。

○河川整備基本方針をビジュアル的に解説できるものを作って情報発信してほしい。

2) 流域及び河川の概要について

○河口部でシバナが確認されていると記載されているが、「河川水辺の国勢調査」では判定ミスがあったと思われるので、できればシバナを消してもらいたい。

→基本方針の早急な修正は難しいが、確認して整備計画に反映していきたい。

3) 計画高水流量図について

○一般の方々が計画高水流量図をみると、 $4900+2000$ がどうして 6000 になるのかという疑問があると思う。また、 $6000\text{m}^3/\text{s}$ が何年に1回くらいの洪水かをわかりやすく解説してほしい。

→雨が降って水が出てくる時のピーク流量を示しており、本川と支川では合流時差があるので、牛妻で $4900\text{m}^3/\text{s}$ 出ている時に藁科川で $2000\text{m}^3/\text{s}$ 出ることにはならない。

→150年に1回くらい起きる可能性のある洪水である。

○昭和38年（既定計画決定）以降に発生した昭和54年洪水と昭和57年洪水を考慮して基本高水 $6000\text{m}^3/\text{s}$ としているが、昭和38年以降既に40年が経過している中で、昭和54年、昭和57年洪水が適正か。

→平成13年までの流量データを並べてみると、昭和54年10月洪水が一番大きく、昭和57年8月洪水が2番目に大きい洪水であるため、データが古いということはない。

4) 河川環境の整備と保全について

○安倍川、藁科川では、子供が飛び込みや岩登りをして遊んでいる特徴があるので、安倍川ならではの人と河川とのふれあいを考慮して進めてほしい。

○安倍川は川幅が広く市街地の中を流れ、市民の目にふれることが、景観上の特徴である。景観は保全だけでなく、創出していくことも必要。

○河口が閉塞しているので、アユの遡上に影響がでているのではないか。

○安倍川は流木が多く、かなり上流の森林などとの関係があると思う。

○安倍川の水質は科学的にきれいでも、見た目はとても汚く住民としてみっともないと感じている。

○最近、牛妻より下流では生活排水のにおいやヘドロがあり、上流域では山の崩壊が非常に多いので、山も含めた考え方を取り入れてもらいたい。

○整備計画では、アユが減っている問題に対し、河床高との関係や森林との関係などを体系立てて調査していくことなどを盛り込んでほしい。

5) 正常流量について

○正常流量は河川整備計画の中で決定するのか、あるいは、この後も引き続き調査した上で決定していくのか。

→正常流量は、基本方針の中で記載することになっており、河川整備計画の中で決めるものではない。今後調査を続けて、正常流量を導き出した後で、再度基本方針を決定するためにも、流域委員会で討議してほしい。

4. 安倍川の現状と課題について

「安倍川の現状と課題」及び「第3回流域委員会及び個別ヒアリングで出された質問に対する回答」について事務局から説明を行い、以下の意見、質問、要望などをいただいた。

1) 霞堤及び支川合流部について

○霞堤の開口部は閉めるのか？

→治水上の問題がない霞堤は残す方向で考えている。霞堤を締め切ると、逆に内水被害が生じることもあるので、今後調査検討し、流域委員会で議論していきたい。

○安倍川の霞堤は、戦後、都市化の進展に伴い閉じてきた経緯があるが、大洪水が来た時に役立つので可能な限り残してほしい。

○霞堤を締め切るか否かという問題は、河川整備計画の中できちんと考えるべき問題だと思う。治水上の効果がある場所では残す方向での検討がなされるべきだと思う。

○支川合流部に落差を作ると、連続性が断ち切られるので、連続性の維持・回復を考える。

○霞堤周辺は交通の便が悪く、水が浸かる等の問題もあるが、住宅地が郊外に拡がる中で、行政側が規制しきれず、現在のようになったと思う。

○将来の時代変化に応じて新たな都市の作り方が必要になる場合もあるので、今は霞堤を保存した方がいいと感じる。

2) 大河内砂防堰堤について

○大河内砂防堰堤の実験用魚道は、遡上効果がなく撤去したとのことであるが、少しでも遡上し実績があったのであれば、今後あきらめないで工夫したらいいと思う。エレベータ式の魚道（コストがかかる）もあり、今後のテーマと考えている。

○安倍川は、国土交通省で管理しているが、治水・利水・環境について静岡市との関わりが非常に大きく、安倍川に関する意見は、静岡市にとっても非常に大事なことだと感じている。

○大河内砂防堰堤は、洪水調節ダムとして造られたと思うが、今は土砂で埋まって機能していない。堰堤上流の土砂を下流に流下するようにしてはどうか。

→大河内砂防堰堤は洪水調節ダムではなく、土砂を貯める砂防堰堤である。堰堤にある「水抜き」は洪水時用に水を流す目的として全ての堰堤に設置してある。

3) 海岸保全について

○大谷崩の治山が徹底したので、海岸が痩せてきたが、大谷崩周辺の人を守るためだけの治山であれば、引っ越ししてもらった方がいいのではないかと。総合的な調査を行い、治山を徹底する必要がなければ、これ以上整備しない等の判断もあり得ると思う。

4) 生物の生息環境、水質について

○近年の安倍川は藍藻類が増えて、珪藻類が少なくなり、アユの生息環境が悪化している。

○下流で珪藻類が復活するような河川環境にするには、下水道整備が必要だと思う。

○治水、景観の良さ、生物の住みやすさの3つが成り立つような、少なくとも2つを満たすような手法を考えてほしい。

○河口は汚れていることかもしれないが、中には食べれるような草もある。

○イドミミズハゼ、スナヤツメ等、絶滅するような貴重な生態に対して、今後、対策・保全を行っていくことが必要。

○水枯れの対策は整備計画にどう反映する予定なのか。

○水質の問題は、水源地である扇状地としての問題としてとらえなければならない。

5) 緊急用河川敷道路について

○緊急用河川敷道路の進捗状況を教えてほしい。

→安倍川左岸高水敷上の0.5k付近～バイパス7.9kまで完成している。今後、上流部への延伸計画があるが、高水敷整備と併せて施工予定である。

5. 今後のスケジュール

事務局より次回、第5回流域委員会を秋以降に開催することを説明した。

各委員からの全ての意見を河川整備計画（原案）に反映させることは難しいが、意見を極力反映した河川整備計画（原案）を次回、流域委員会で提示する。

以 上